

## 専門機関による外部評価概要

原子力防災訓練について、外部専門機関（(株)日立パワーソリューションズ）による評価を実施。概要は、以下のとおり。

訓練項目	良 好 な 点	検討を要する事項
災害対策本部訓練	適宜班長会議を開催し、災害対策本部会議の内容及び防護措置の検討内容についての事前調整を行うとともに、情報収集及び調整等の作業分担を各班に明確に指示することで、各班が情報収集や資料作成等を円滑かつ効率的に実施した。	災害対策本部各班間の情報共有について、手書きの処理票の回覧等により積極的に行われていたが、担当者の負担が大きく、改善の余地が見られた。災害対策本部内の効率的な情報共有方法及び記録方法について、引き続き検討することが望ましい。
	発災後、ERC住民安全班とWEB会議システムを常時接続することで、被害情報等の共有や、施設敷地緊急事態における防護措置の検討が、円滑かつ効率的に実施された。	県と伊方町の連携において、情報共有や支援要請など積極的な活動が見られたが、町災害対策本部側は少人数での活動であったため、より実際に即した体制での訓練を行うなど要員の更なる対応能力向上を図ることが望ましい。
オフサイトセンター運営訓練	防護措置に係る情報共有に関しては、OFC住民安全班と常時WEB会議を接続し、即時に連絡可能な体制を構築することで、円滑かつ効率的に実施された。	県災害対策本部も加えた、県災害対策本部、県現地对策本部及びOFC機能班の三者間における調整要領についても検討し、訓練で検証することが望ましい。
緊急時モニタリング訓練	国の原子力総合防災訓練と連動し、実際に即した体制で訓練を実施したことで、ERC放射線班及びOFC放射線班との情報連絡手順についても、習熟度向上が図られた。	土壌採取場所では、撤収時において、地面に直接触れた側を内側に折りたたみ、付着した土の車内等へのこぼれを防止するなど、更なる汚染防止対策を図ることが望ましい。
原子力災害医療活動訓練	医師等による安定ヨウ素剤について必要に応じて服用相談が実施されるなど、職員の対応手順の習熟及び住民の安定ヨウ素剤服用に関する理解促進のための取組みが実施された。	今回の訓練では孤立地域から空路避難後に直接避難所に向かったため、安定ヨウ素剤配布及び避難退域時検査を省略したが、確実に実施するための体制等について確認することが望ましい。
住民避難・誘導訓練	屋内退避に際しては、動画での説明後、職員の指示により、避難住民全員が参加し、出入口の養生等の手順を適切に確認できていた。実践を訓練に取り入れることで、避難住民への理解をより深めることができると考えられるため、今後も同様の取組みを継続することが望ましい。	避難車両が多数、避難先に到着した際に避難住民の誘導、受付に若干の混乱が生じた。避難バスに随行している職員、関係市町本部及び避難所間での連絡を密に行い避難状況を共有するとともに、誘導方法や受付レイアウトを工夫するなど多数の住民を受け入れる体制を構築することが望ましい。
	昨年度に引き続き、陸路避難のほか、地震による道路寸断や離島からの避難を想定した海路及び空路による避難訓練が多くの場所で実施され、県及び市町のマニュアルに基づく一連の手順が適切に実施されていることを確認した。	孤立地域において空路避難を実施する場合の、安定ヨウ素剤配布及び避難退域時検査の実施場所や実施要領についても、検討することが望ましい。